



上伊那賛助会報
第137号 2019年10月22日発行
長野県長寿社会開発センター
伊那支部上伊那賛助会
TEL 0265 (76) 6863

信州 ねんりんピック開催される

毎年恒例となっている「信州ねんりんピック」は「文化・芸術交流大会」と「スポーツ交流大会」の二つのイベントが、毎年県下各地区会場を変えて開催されている。

今年は「文化・芸術交流大会」が9月21日(土)飯山市文化交流館なちゅらにおいて開催された。「スポーツ交流大会」は10月26日(土)長野運動公園総合運動場で開催されるので次号にてお知らせする予定である。

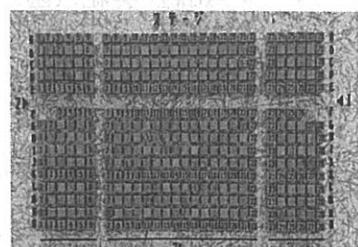
会場となった飯山市文化交流館なちゅらの建物写真です。とても個性的な外観デザインで、平行・直角となる部分が見当たりません。本建物は来年開会式の行なわれる東京オリンピックスタジアム会場と同じ 隈研吾先生の設計との紹介が飯山市長よりなされた。

館内を見て感じることは、この先生の特徴として木材を多用するナチュラル感の表現を得意とする手法で館内での案内看板、座席ナンバー表示板なども木材で表現・主張されており、工業製品は来館者の視界から遠ざける工夫が感じられた。

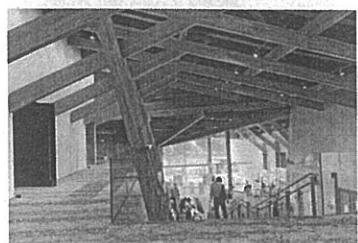
また、アプローチは広大なスペースが用意され周辺の自然環境と共に市民に開かれ、一体感と共に持続性が確保されている。



アプローチよりのファサード



座席表示板△ 2階ホール▽



文化・芸術交流大会

大会のテーマ

『北信濃から、シニアこそその しあわせ発信！』

オープニング

飯山市文化交流館なちゅらの大ホールにおいて、午前10時30分から開会となり、オープニングは五束太々神楽保存会の皆さんによる♪五束太々神楽「翁舞」により開始された。(写真下)

式 典

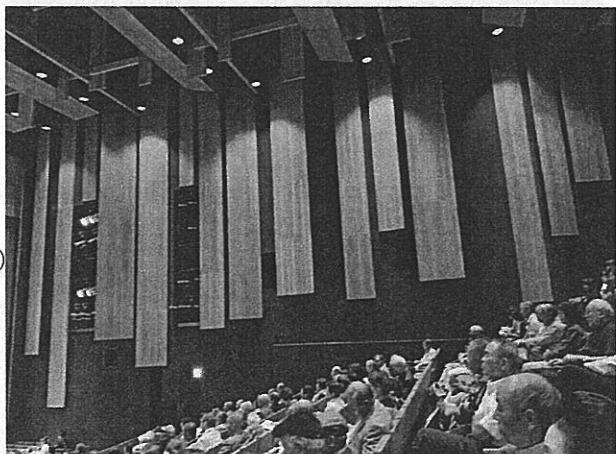
続いて長野県知事の挨拶(代読)、長野県長寿社会開発センター内山二郎理事長の挨拶、長野県健康福祉部長、飯山市長の他、来賓の挨拶があり表彰式が行われた。表彰は、高齢者福祉の分野で他の模範となる積極的な活動をされ、優れた功績をあげられた個人及び団体の長野県知事表彰と、贊助会員の各地域における社会参加活動に多大な功績のあった個人及び団体について長寿社会開発センター理事長表彰が行われた。



●長野県知事表彰（高齢者福祉分野）

- ・個人表彰（3名）敬称略

川村 英紀（佐久市） 竹澤 とき子（安曇野市）
丸山 豊（上田市）



- ・団体表彰（1団体）

白ゆり会（松本市）

●長野県長寿社会開発センター理事長表彰（社会参加活動推進分野）

- ・贊助会員個人表彰（11名）敬称略

大井 鑛二（佐久市） 箕輪 経一（佐久市） 伊藤 智敏（岡谷市） 中田 喜志江（南相木村）
植松 直樹（諏訪市） 今井美代子（茅野市） 卷井 清人（松川町） 林 利夫（飯田市）
大月 雪代（松本市） 荒井 公（長野市） 金井 義信（木島平村）

- ・贊助会グループ表彰（5団体グループ）

舞幸会（佐久地区） 26輝く会（松本地区） 竜虎エンジョイ（長野地区）
被災地オテガミプロジェクト推進チーム（長野地区） みゆき野絵楽会（北信地区）

ステージ発表

ステージ発表は、5グループの登場で、歌あり・踊りあり、中にはアクシデントを笑いに変えてしまう場面もあり楽しい雰囲気の中で午前の部は終了した。午後の部は基調講演を軸として、長寿社会開発センター内山理事長をコーディネーター役にパネラー3名によるトークセッションが開催された。コーディネーターによる鋭い突っ込みの中で、ボケで返す見事なパネラーがみんなの笑いを誘う。又ステージ上では所狭しと客席に飛び出し台本がないインタビューで何人にもマイクを向け「私のところにはこないで」と下を向く人の多いなかで上伊那賛助会からは3名の大当たりが出ました。

高齢者作品展

今年度の高齢者作品展は、「飯山市公民館」の2階において9月20日から9月22日まで日本画、洋画、彫刻、手工芸、書、写真の作品が公開展示された。

応募総数は日本画25点、洋画44点、彫刻23点、手工芸71点、書52点、写真34点となり249人からなる力作が展示された。

上伊那賛助会からは、日本画の部で 高林千尋（伊那市）さんの「早春の野焼き」が見事に長野県知事賞を受賞された。高林さんは平成28年にも同部「冬の華」で塩尻市長賞を受賞をされている。

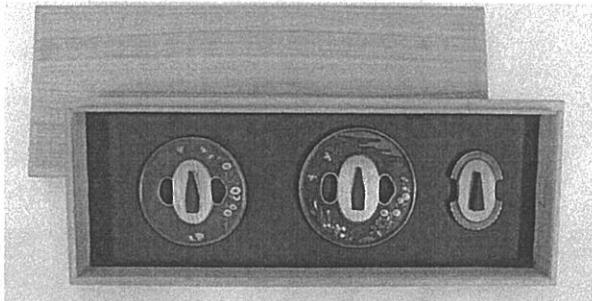
手工芸の部では、保科文夫（伊那市）さんが同じく「秋の図」で長野県知事表彰を受賞された。保科さんは昨年の平成30年度のねんりんピックでは長野県長寿社会開発センター理事長賞を受賞されており、よろこびの連続受賞となつた。



日本画の部 長野県知事賞

作品名 早春の野焼き 作者 高林 千尋

しつとりとした空気が膚にまとわり、燃した草木の匂いが立ち昇る。鳥の声、風の音、人の息づかいが漂う朝。いつもの風景と人の営みを愛しむ作者の想いが伝わった。



最高齢者賞の部では、片桐文雄（飯島町）さん・田中ひろ（伊那市）さんの90代なかばの、お二方が受賞された。



なちゅらのエントランスで 笑顔の集合



飯山市民会館での囲碁大会



飯山市の「仲邑 莉」さん登場です

伊那市ふれあい広場に協賛

活動サポーター：松崎 哲

第13回ふれあい広場が9月22日（日）伊那市福祉まちづくりセンター・ふれあい～なで開催され、上伊那賛助会も例年通りブースを開設した

今年は、北原会長他11名に浦野推進員と藤井コーディネーターが加わり、通年以上の協力者の下で活気に満ちて、社会福祉協議会の開催テーマ「わ」の趣旨に協賛できた。

今回、上伊那賛助会の目玉は、①長谷道の駅「南アルプス村のクロワッサン」800個の販売。②ゆめクラブの押し花しおり作り体験者に「ポップコーン」の無料配布であった。



上伊那賛助会開設ブース(1階ホール)



クロワッサンの販売(午前中に完売)



ゆめクラブの押し花しおり作り



ブース協力の会員

クロワッサン800個の売り上げ収益金 8000円は、10月29日（火）開催予定の賛助会の集いにおいて、伊那市社会福祉協議会へ寄贈することが8月のグループ長会で決定している。

私たちは、今年のもう一つのテーマであった、「同じ目線で語り合い、ふれあいと交流を通して、誰もが住みよい福祉のまちづくり」を考える、貴重な機会になったと感じられたのではないだろうか？

そして、こうして賛助会員として知り合えた仲間と、いろいろな体験を重ねられることのご縁や喜びが、大きな「心の財産」になっていると考えている。

賛助会会員

&
シニア大生

マレットゴルフ交流会

7月10日（水）賛助会主催のシニア大生とのマレットゴルフ交流会を開催した。
梅雨時期ではあったが、皆さん日頃の心がけがよろしいと思われ絶好のスポーツ日和の中、
大勢の方の参加で、和気あいあいと楽しい交流会が出来ました。 参加者総勢51名でした。



※ナイスショットのボールの行方は・・・？

※林間コースで気持ちよかったです。



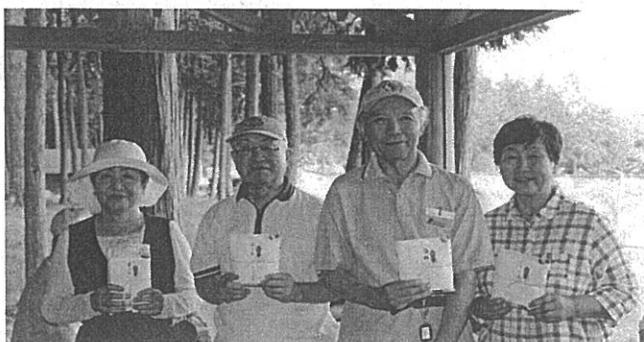
成績発表

賛助会会員

優 勝	伊藤 三恵
準優勝	米山 栄夫
第 3 位	宇治 重人

シニア大生

優 勝	清水 満
準優勝	久馬 利夫
第 3 位	唐澤 みよ子 福澤 弥生



みごと賞品を手にした皆さん

「賛助会の集い」おしらせ

「Beauty—うつくしいもの」上映会

日時：10月29日（火）

場所：伊那市生涯学習センター（いなっせ6階）

9時15分 開場

9時30分 オープニングセレモニー開始

10時～ 上映開始（109分）

上映終了後には、後藤監督のトークがあります。直接お話を聞かれるいい
機会です。皆さんおそろいでお出かけください。

後藤俊夫監督（伊那市出身、飯島町在住）が伊那谷各地に伝わる農村歌舞伎をモチーフに2007年に制作した作品で、人間と自然をそのまま描き続けてきた日本の歌舞伎として身近な郷土映画です。

どなたでも無料でご鑑賞できますので、家族の方、お友達に声を掛けて、
伊那谷の美しい自然の再発見をしませんか。

キヤッチコピーは「いつから逢わぬか、おまえ、憶えていやしゃんすか
-誰に話そう、きみとぼくとの八十年を-」

昭和10年、長野県伊那谷にある小さな山村・伊那路村。この村の少年・小椋半次は代々伝えられてきた村歌舞伎を初めて目にし、その歌舞伎の美しさに惹かれ、舞台を演じてきた花形役者・桂木雪夫との歌舞伎の世界へと入り込んでいく。この二人の激動の昭和時代の80年間にわたる絆を描いた物語である。

13時30分 シニア大生との交流会

賛助会グループ活動発表

・既存8グループ

・新規4グループ（今年度入会された4グループ）

*かがやき41 *花 *山ぼうし *ひまわり



「シニア通信」読者登録のご案内



●そもそも「シニア通信」ってなに?

シニア活動推進コーディネーターの藤井です。シニアの皆様がより活動しやすくなることを目標に、様々な機関・団体・個人との連携に取り組んでいます。また、シニアの皆様の活動を取材し、情報の収集・提供等も行っています。

今年2月、シニア大学の皆様が卒業されたら、つながりが無くなってしまうのが残念…と思い「シニア通信」を発行することにしました。地域を回る中でいただいた情報や、シニアの皆さんの活動紹介などを、A4 サイズ1枚にまとめ、月に一度、10日前後に、ご登録いただいた皆様（現在約50名）に、FAXまたはメールにて配信しています。

●こんな時にも、ご利用ください

皆さまの活動紹介、イベント参加者募集のお知らせなどにもご利用下さい。少し早めにご一報いただければ、取材の上、情報を掲載させていただきます。

●「シニア通信」の読者になるには？

「『シニア通信』配信希望」の旨を、
藤井までお知らせください

-FAX: 0265-76-6513

(FAX番号とお名前をご記入ください)

・メール:k-fujii@nicesenior.or.jp

(お名前をご記入ください)

グループの皆さんやお仲間同士、メール、ラインなどで転送していただいてもかまいません。より多くの皆さんに、情報を提供できたらうれしいです。

(公財)長野県長寿社会開発センター伊那支部
シニア活動推進コーディネーター 藤井佳代

電話 0265-76-6863

令和伊那トンネル探訪

国道153号線伊那バイパス建設工事は、箕輪町木下と伊那市美篋青島地籍の市道ナイスロード合流点を結ぶ全長7.6Kmに及ぶ大きな工事である。いすれはこの延長線として伊駒アルプスロードとして駒ヶ根までの延伸が計画されている。

さる8月30日(金)タイミングよく数人の仲間と、工事現場を訪ねることができたので皆さんに工事の様子をお知らせいたします。

箕輪町からは2車線利用で伊那市の福島の竜東交差点までの3.4Kmは運行供用がされているトンネル内はすでに、今年2月に貫通しコンクリート補強がされ、車道部の円形水路の施工が進められている。

トンネル自体の延長は166.7mであり、トンネルの南、福島側では、県道伊那辰野停車場線(竜東線)との交点での立体交差の高架橋としての下部工事が施工されており、橋桁がカーブ状に架設された状況である。施工担当者の話で、このトンネル地層はとても柔らかい地層でトンネル上部との距離がすくなく又、トンネル上部には遺跡が存在し、神経をすり減らしましたとの苦労話も披露された。この施工業者はJVを組んだ地元業者であり、トンネル工事となると中央の大手業者を連想させますが、地元でも工事ができるのだと感心すると同時に、中央と地方での技術の差はなくなりその分機械の性能が大きく貢献しているのだ、地方も「よし任せろ」と自信を持ち、これから時代は地方が力をつけるのだと一歩でも前へ進むことが大事だと痛感した。



消費税が8%から10%に上がってどうのとか、ラグビーワールドカップで奇跡的勝利がどうのとか騒いでいる国民のなんと多いことか?であるが、ここでは、先般開催された「ふれあい広場」について触れてみたい。

福祉関係の場で「ノーマライゼーション」という言葉を耳にすることが多くなってきたと感じる。これは、デンマークの社会活動家バンク・ミケルセンが提唱した、知的障害などの弱者が一般市民と同じように普通の生活を送り、同様の権利が保障されるように環境整備を目指す理念であると言われる。

小生は、シニア大学やいきいき実践塾の講義で、近江学園長の糸賀一雄氏が提唱されたノーマライゼーション「この子らに世の光を」から「この子らを世の光に」と、にとをを、をとにに置き換えられ、「彼らの障害の内容ではなく彼らの人格の内容を社会の尊重できる社会の向上」を説かれたことを学んだ。それ以来、機会あるごとに「この子らを世の光に」の理念の下に、生まれ育てて戴いた地域にご恩返し!と、肝に銘じている。そうでないと、常々ボーと生きておりチコちゃんに叱られるタイプだから‥

(編集委員M)

編集の窓

